

日本大学  
生物資源科学部

# 校友会会報

2023年(令和5年) 第76号



生物資源科学部 2号館

## 《目次》

学部長挨拶	2	満喜葉会(動物資源科学科)	13
会長挨拶	3	いもづる会(食品ビジネス学科)	14
令和5年度総会・懇親会	4	あすなろ会(森林資源科学科)	15
令和4年度校友会収支決算書	5	桜水会(海洋生物資源科学科)	16
令和5年度校友会収支予算書	5	工学会(生物環境工学科)	17
校友だより(富獄会)	6	F T会(食品生命学科)	18
校友だより(紫友会)	7	拓友会(国際地域開発学科)	19
校友だより(角笛会)	8	応用生物科学科校友会(応用生物科学科)	20
校友だより(満喜葉会)	9	くらしの生物学科校友会(くらしの生物学科)	21
富獄会(生命農学科)	10	支部だより(宮城県支部、山形県支部)	22
紫友会(生命化学科)	11	支部だより(神奈川県支部、高知県支部)	23
角笛会(獣医学科)	12	校友会からのお知らせ	24



## 「時代を見据えた新学部体制が スタートいたしました」

生物資源科学部長  
丸山 総一

生物資源科学部長の丸山総一です。校友の皆様におかれましては、平素より生物資源科学部に格別のご支援とご高配を賜り、心より感謝を申し上げます。令和5年度校友会会報第76号の発刊に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

生物資源科学部は、既存の学科の教育・研究内容を大きく見直し、令和5年度からバイオサイエンス学科、動物学科、海洋生物学科、森林学科、環境学科、アグリサイエンス学科、食品開発学科、食品ビジネス学科、国際共生学科、獣医保健看護学科、獣医学科の11学科の構成でスタートいたしました。新たな学部では、「生命」「環境」「食料」「資源」に関する体系的なカリキュラムを通じ、分子・生体レベルからフィールドに至るまでの最先端の知識や技術を学ぶことで、新たな時代のニーズに応えることができるような「実践力」のある人材を育成してまいります。

湘南キャンパスでは、学部・大学院を合わせますと6,700名を超える学生が在籍しておりますが、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に5類感染症に移行したのに伴い、ほとんどの講義・実習・研究室活動ならびに課外活動なども、平時の状態に戻しました。これからも学生・教職員の健康と安心できるキャンパスライフに配慮しながら学部の運営に努めてまいりたいと思っております。

社会の状況に目を向けてみますと、18歳人口の減少と入学定員管理の厳格化、受験者の農学離れやニーズの移り変わり等により、大学全体の受験者数減少の傾向が顕著になってまいりました。日本私立学校振興・共済財団が公表した2023年度「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、集計した600校のうち、定員割れした大学は前年比37校増の320校で、大学全体に占める未充足校の割合は53.3%と過去最多となっております。さらに、募集停止の大学・短期大学も今後増加すると予想されます。このように厳しい状況の中で、日本大学生物資源科学部は受験生から選ばれる大学・学部として、今後も存続していかなければなりません。幸い、2023年度の生物資源科学部の受験生は、前年に比べると1000名以上増加いたしました。さらに多くの受験生を獲得するためには、教員一人一人が学生と真摯に向き合い、魅力ある教育・研究を推し進めていくことが重要であります。私たちには農獣医学部の時代から培った伝統（多くの卒業生・校友会の皆様）と蓄積してきた「知の財産」があります。これらを礎として、私たちは最先端のその先を見据えて、多くの優秀な人材を輩出できるよう一丸となって頑張っております。

日本大学は、2022年7月1日から林真理子理事長と酒井健夫学長



を中心とした新体制がスタートいたしました。林理事長が提唱するはNEW NIHON UNIVERSITY (NN = 新しい日大)では「学生ファースト」を、酒井学長の「日本大学ルネッサンス計画」では、教学優先の大学となることを宣言しています。生物資源科学部も新体制の元で、学生たちが未来の夢を実現できるよう、そして充実したキャンパスライフを送ることができるよう、全力でサポートしてまいります。そして、すべての卒業生が、生物資源科学部に入学して本当に良かったと思っただけけるような環境づくりをしてまいります。どうか、校友会の皆様におかれましては、母校の発展のため学外から暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 「第76号校友会会報発刊に向けて」

生物資源科学部校友会 会長

鳥海 弘

(昭和50年 獣医学科卒)

日本大学生物資源科学部校友の皆様方に於かれましては、これまでに経験したことのない社会情勢の中で、各々の分野でご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。新型コロナウイルス感染症も依然として収束が明確に見通せない事態が続いておりますが、5月に第5類感染症へと変更され、社会活動もポストコロナに向け本来の姿に戻りつつあります。こうした中、令和4年度校友会活動も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年でした。

私は、本年3月までは前会長の残任期間を継承し職務を務めてきましたが、本年2月25日に開催された生物資源学部校友会幹事会にて、あらためて学部校友会会長に選任されました。今回は、分会長会議での旧規程による合議制での選出方法ではなく、「会長選出規程」を改正した「会長及び副会長選任規程」にて、選挙により正副会長が選任されました。任期は1期3年とし、最長2期までとした点が旧規程とは大きく異なります。任期は令和8年3月31日までの3年間となりますので、微力ではありますが皆様のご協力を賜り務めさせていただきます。

7月8日に久しぶりに多くの会員の出席の下、対面方式で開催された令和5年度校友会総会では報告事項5件と8件の審議事項の議案を上程し、すべての議案が賛成多数で承認されました。令和4年度の事業報告並びに会計報告、また令和5年度の事業計画並びに予算等についても承認されましたので、今後の活動に生かして行きます。また、学部校友会に対す

る功績により、表彰をお受けにられました会員の皆様方には衷心よりお慶びを申し上げます。今後も学部校友会に対しましてご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

学部校友会活動ですが、大学本部校友会からの還付金が大きな活動原資となっておりますが、昨年から元来の60%から3年をかけて減額され、最終的に40%に漸減されて学部校友会に還付されることが決定しております。昨年8月に本会から本部校友会会長宛てに、減額の中止を要請しましたが、未だに本部からは明確な回答はありません。これにより本学部校友会の運営には、今後も大幅に予算を削減した運営を求められます。

このような状況下でも本学部校友会は他と比較しても活発に活動している組織です。それは本学部校友会が12分会+1準分会の集合体であり、各分会が活発に活動しているからです。しかしこの状況も本年4月からスタートした学部の改組により、分会をどうするのが大きな課題となっております。学部からは学科統廃合再編ではなく新スタートであるとの見解が示されています。現分会をどの新学科が承継するのか、あるいは統合するのか、または刷新するのか、当事者にとっては深刻な問題ですので、十分に議論し結論を導かねばなりません。ぜひ各分会で話し合いの上、最善の方向を導きだしていただきたいと思っております。

本会の活動は、11万人余の卒業生を対象にしておりますが、将来、在校生が校友会に関心をもち入会・活動していただくためにも、在校生である準会員向けの事業にも重点を置いており



ます。本方針は今後も継続して将来のための投資ということで対応してまいりますので、今後も皆様のご理解・協力を得て組織の充実を図って行きます。

総会終了後には酒井健夫学長の記念講演が開催されました。講演テーマは『「個」の尊重と「全」の創出』で、今後の大学運営のロードマップが示されました。講演会には総会出席者以外にも多くの聴講者が参加され、受講者からは素晴らしい内容であり感激したという感想が述べられました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、本学の校友会活動も多く分会で少なからず影響を受けています。その中にはありますが本年も第76号校友会会報を発刊する運びとなりました。多くの校友諸兄に本誌を拝読して頂き、発展した学部の現況や各分会の活動をお届けできれば幸いに存じます。総合大学である本学の特色を生かし「学生・教職員・学部・校友会」という強固な「絆」で形成された校友会活動への積極的な参加をお願いし、校友会の目的である会員相互の親睦を図り、母校の発展ならびに社会貢献をお願いする次第です。

末筆となりますが、校友の皆様方にはこの社会情勢下ではありますが、健康に十分に留意され、ご活躍されますことを祈念申し上げ巻頭の挨拶といたします。



## 令和5年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会等の報告について

通常総会は、コロナ禍の中で令和2年度から4年度までの3年間開催を中止していましたが、令和5年度に入って、5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したこともあり、学部校友会活動はコロナ禍の前の状態に戻りつつある状況の中で、令和5年7月8日(土)に日本大学生物資源科学部本館14階NUホールAにおいて令和5年度の通常総会と併せて日本大学学長・酒井健夫先生を講師にお招きして記念講演会を開催しました。

なお、通常総会に先だって午後2時から会長賞の授与式を行いました。学部校友会の役員を10年以上務め、学部校友会の発展に寄与された津曲前幹事長、横川前いもづるの会長及び関村前FT会会長の3名の会員に会長から表彰状と記念品が授与されました。

通常総会は、午後2時35分から65名(最終的には75名の出席)の会員にご出席をいただき、議長に工学会会長で学部校友会副会長の酒川会員を、また、議事録署名人に紫友

会の荻原会員及びあすなる会の渡辺会員を選出して、報告事項5件の報告及び審議事項8件の審議を行いました。

内容は次のとおりです。

報告事項は、

- ① 分会選出幹事の就任
- ② 会長及び副会長の就任
- ③ 幹事長の就任
- ④ 会長及び副会長選任規程の制定
- ⑤ 会長及び副会長選挙管理委員会規程の制定

以上5件の報告を行いました。

審議事項は、

- ① 監査役の選出案
- ② 会則の一部改正案
- ③ 令和4年度事業報告
- ④ 令和4年度収支決算報告
- ⑤ 令和4年度末財産目録
- ⑥ 令和4年度定例監査報告
- ⑦ 令和5年度事業計画案
- ⑧ 令和5年度収支予算案

以上の8件の審議を行いました。

②の会則の一部改正案は、会則に定めた出席者の3分の2(43名)以上の63名の賛成で承認されました。

⑥の令和4年度の定例監査報告は、監査役を代表して長谷川監査役から報告がありました。他の6件の審議事項は、全て賛成多数で承認されました。

審議終了後、酒川議長は議長を退任、阿部幹事長が閉会宣言し、令和5年度の通常総会は、午後4時20分に閉会しました。

通常総会后、日本大学学長・酒井健夫先生による『「個」の尊重と「全」の創出』という演題で、記念講演会を開催しました。講演の中では、日本大学は16学部86学科で構成される総合大学で、学生や学部の「個」の自主性を尊重しながら、「全」すなわちスケールメリットを生かし物事を多面的に捉えて新たな発想ができる人材を育てることが本学の役目であること、等々のお話を拝聴いたしました。会場からは、今後の大学の発展を大いに期待しているのご意見を頂戴いたしました。

通常総会終了後に毎回開催していましたが懇親会は、学内での飲食は時期尚早ということで今回は中止としました。





## 令和4年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書 (自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和4年度予算 (A)	令和4年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	30,933,924	30,933,924	0	現 2,190千円、預28,744千円(普15,744千円、定 13,000千円)
2. 会 費 収 入	35,875,000	37,486,000	▲ 1,611,000	
1) 準会員還付金収入	35,398,000	36,982,000	▲ 1,584,000	準会員 6,724名 × 5,500円
2) 正会員補助費収入	477,000	504,000	▲ 27,000	正会員 168名 × 3,000円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,000,000	0	1,000,000	
5. 雑 収 入	100,000	415	99,585	預金利息
当年度収入合計	36,975,000	37,486,415	▲ 511,415	
収 入 合 計	67,908,924	68,420,339	▲ 511,415	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和4年度予算 (A)	令和4年度決算 (B)	予算と決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	17,345,000	18,194,000	▲ 849,000	12分会への交付金(初回還付金 36,388千円 × 1/2)
2. 経 常 費	10,840,000	7,956,006	2,883,994	
1) 人 件 費	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者給与
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	893,276	306,724	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	1,500,000	1,281,782	218,218	会議資料等発送費、分会の会報発送費の一部支援
5) 会 合 費	700,000	156,868	543,132	各種会合に係る諸経費
6) 交 際 費	1,100,000	93,990	1,006,010	慶弔費等
7) 旅 費 交 通 費	800,000	294,880	505,120	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支 払 手 数 料	70,000	45,210	24,790	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	12,300,000	7,940,426	4,359,574	
1) 総 会 費	1,500,000	44,226	1,455,774	総会・懇親会中止となるも表彰に係る諸経費
2) 広 報 費	1,700,000	1,696,200	3,800	校友会会報の印刷製本費
3) 総務委員会運営費	20,000	0	20,000	
4) 財務委員会運営費	20,000	0	20,000	
5) 企画委員会運営費	20,000	0	20,000	
6) 広報委員会運営費	70,000	0	70,000	
7) 組織委員会運営費	50,000	0	50,000	
8) 記念事業補助費	300,000	0	300,000	
9) 準会員対応費	8,000,000	6,000,000	2,000,000	学部校友会奨学金及び藤枝祭活動資金の一部補助
10) スポーツ振興対応費	100,000	0	100,000	
11) 箱根駅伝対応費	120,000	0	120,000	
12) 組織拡充計画費	200,000	200,000	0	4県支部の運営資金の一部補助
13) 日本大学創立130周年募金	100,000	0	100,000	
14) 歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
15) ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
4. 予 備 費	2,000,000	0	2,000,000	
当年度支出合計	42,485,000	34,090,432	8,394,568	
次年度繰越金	25,423,924	34,329,907	▲ 8,905,983	現 2,437千円、預31,893千円(普 18,893千円、定 13,000千円)
支 出 合 計	67,908,924	68,420,339	▲ 511,415	

## 令和5年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書 (自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和5年度予算 (A)	令和4年度予算	令和4年度決算(B)	4年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 前年度繰越金	34,329,907	30,933,924	30,933,924	3,395,983	現 2,437千円、預31,893千円(普 18,893千円、定 13,000千円)
2. 会 費 収 入	33,201,000	35,875,000	37,486,000	▲ 4,285,000	5年度の準会員還付割合は1人当たり5,000円で算出
1) 準会員還付金収入	32,700,000	35,398,000	36,982,000	▲ 4,282,000	32,700千円 与 (5年平均納入者 6,813人 × 伸び率 96%) × 5,000円
2) 正会員補助費収入	501,000	477,000	504,000	▲ 3,000	501千円 与 (5年平均納入者 171人 × 伸び率 98%) × 3,000円
3. 寄 附 金 収 入	0	0	0	0	
4. 祝 金 等 収 入	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5. 雑 収 入	400	100,000	415	▲ 15	預金利息
当年度収入合計	34,201,400	36,975,000	37,486,415	▲ 3,285,015	
収 入 合 計	68,531,307	67,908,924	68,420,339	110,968	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和5年度予算 (A)	令和4年度予算	令和4年度決算(B)	4年度決算との比較 (C=A-B)	摘 要
1. 分会交付金	16,163,000	17,345,000	18,194,000	▲ 2,031,000	16,163千円 与 (5年平均初回納入者 6,665人 × 伸び率 97% × 5,000円) × 1/2
2. 経 常 費	10,540,000	10,840,000	7,956,006	2,583,994	
1) 人 件 費	5,000,000	5,000,000	4,720,000	280,000	事務局勤務者給与、アルバイト賃金
2) 本 部 分 担 金	470,000	470,000	470,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び役員会費
3) 事務局運営費	1,200,000	1,200,000	893,276	306,724	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	1,400,000	1,500,000	1,281,782	118,218	分会の会報発送費の一部支援、関係先への資料発送費等
5) 会 合 費	500,000	700,000	156,868	343,132	幹事会、執行役員会、各種会合(5委員会除く)に係る諸経費
6) 交 際 費	1,100,000	1,100,000	93,990	1,006,010	分会、県支部、他学部校友会総会等に係る祝金等
7) 旅 費 交 通 費	800,000	800,000	294,880	505,120	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支 払 手 数 料	70,000	70,000	45,210	24,790	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3. 事 業 費	13,280,000	12,300,000	7,940,426	5,339,574	
1) 総 会 費	1,500,000	1,500,000	44,226	1,455,774	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	2,000,000	1,700,000	1,696,200	303,800	校友会会報の印刷、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	0	70,000	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	300,000	300,000	0	300,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準会員対応費	8,000,000	8,000,000	6,000,000	2,000,000	学部校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10) スポーツ振興対応費	0	100,000	0	0	4年度で終了
11) 箱根駅伝対応費	0	120,000	0	0	4年度で終了
12) 組織拡充計画費	200,000	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4県支部へ運営資金の一部補助
13) 日本大学創立130周年募金	0	100,000	0	0	4年度で終了
14) 歴史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
15) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
16) 分会設立準備資金等	1,000,000	—	—	—	学科再編に伴う新規予算
4. 予 備 費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	(ホームカミングデー開催経費を含む)
当年度支出合計	41,983,000	42,485,000	34,090,432	7,892,568	
次年度繰越金	26,548,307	25,423,924	34,329,907	▲ 7,781,600	
支 出 合 計	68,531,307	67,908,924	68,420,339	110,968	

## 校友だより

### 世界一美味しいトマトを目指して

植物資源科学科  
2018年度卒業 稲吉 洸太  
株式会社サンファーマーズ  
海外戦略部長

私は、実家が種苗会社と、高糖度トマトを生産する農業法人の両方を経営していたため、当学科に入学しました。研究室は応用昆虫学研究室でしたが、将来の仕事に直結するという理由で、毎週地元の静岡へ戻り、トマト生産圃場に発生する害虫の研究をしていました。そんな学生時代は、どちらかと言えば学業よりもサークルや部活動の方が、力が入っており、多くの友人に恵まれ、長期休暇の際は、よくアルバイトでためた貯金で好きな海外旅行をしていました。

現在は、若輩ではありますが種苗会社の経営を引継ぎ、トマトの生産法人では海外戦略部長として日々、スペインの現地法人のスタッフと業務のやり取りを行っております。

私達が生産するトマトは、「アメーラ」といい、灌水を極力少なくするという特殊な栽培方法で通常の栽培トマトより糖度を上げた高糖度トマトです。既に生産開始から27年が過ぎ、今や全国のデパートやスーパーで販売して頂けるほどに国内では生産量を拡大してきました。5年前には、世界のトマトのマーケットを目指し、スペインに現地法人を設立してヨーロッパの国々へ少しずつですが販売開始しました。トマト作りと同様に、明確なブランドアイデンティティ『最高品質の高糖度トマトで、美味しさの感動をお届けします。』のもと、お客様を引きつけるブランド作りも、国内とヨーロッパと同時に行っております。

「アメーラ」トマトの品質とブランドを高く評価して頂き、ドイツ・ベルリンで毎年開催される欧州最大級の野菜関連見本市「Fruit Logistica」の2022年イノベーションアワードにて金賞を受賞することができました。今後の目標は、国内及び海外においても、更なる「アメーラ」トマトの品質向上とブランド力強化にむけて取り組み、独自性を磨いて、需要がある限り拡大していきたいと考えています。

弊社には多くの日大卒業生が在籍しており、これまで多くのハードルを彼らと一緒に乗り越えてきました。在学時代からの交友関係は今でも続いており、研究室の教授には今でも求人活動等で相談させて頂いております。これから新たに入社され共に働いていく仲間との出会いが今からとても楽しみです。これらの関係こそが財産であり、大事にしていきたいと思っております。



フルーツロジスティカ（ドイツ）イノベーションアワード受賞。左が著者。



アメーラトマト栽培圃場にて。



販売の様子 スペインのデパートにて。



## 基礎研究と医学の懸け橋 になることを目指して

農芸化学科 (現 バイオサイエンス学科)  
1998年卒業 永迫 茜  
横浜市立大学医学部医学科  
循環制御医学 助手

現在、私は横浜市立大学の助手として勤務しております。教室の様々な面において、教室運営が円滑になされるように教室員を指導し、自ら動くことが私の業務です。具体的には、自分の研究テーマもありますが、医学部生の実習補助と修士・博士号取得を目的として教室に在籍している大学院生の研究をサポートすることです。

ここでの大学生活は、私の卒業した生物資源の学生さんの研究スタイルと大きく異なることが2つあります。一つは、博士のほとんどが社会人大学院生であり、医師として勤務しながら限られた時間で研究をしていることです。もう一つは臨床に直結する明確なクリニカルクエストを持っていくことです。日々臨床を行っている中で、「なぜこう処置するとこういうリスクが発生するのか」、「こういう疾患

の方々にこういう傾向がみられるが、それを化学的に立証することはできないか」、という疑問を解明したいという明確な意思をもって研究されていることです。これらは医学部ならではの研究スタイルと思考だと思いますが、私自身も、社会的に大変意義のある面白いテーマに関われることに、非常にやりがいを感じています。

教室運営として、教室員の皆様に意識的にお伝えしていることは、研究費の獲得とその大事さです。市立大学も独立行政法人化がなされ、私の大学時代とは運営の仕方もかなり変化しています。自分たちで研究費を獲得しなければいけない時代になりました。研究費を獲得するためには論文が必要で、論文を出していくには研究成果が必要で、研究成果を出すには研究費が必要となります。この3本柱のどこが倒れても運営が成り立たなくなるということを常に意識して研究に励んでいただくよう伝えております。なぜならば、当研究室の先生方は、いずれは教室を運営し治める立場になっていく可能性があるからです。

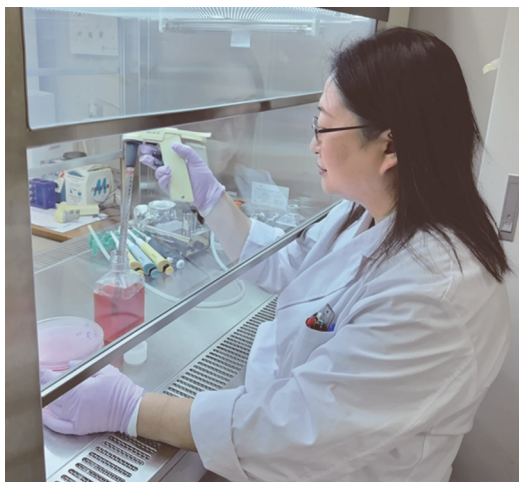
私の大学卒業後を振り返ると、大

卒求人倍率 0.99%と言われた1999年3月に卒業し、希望する職に就くのは簡単ではありませんでした。私自身も様々な職種を経て、現職にたどり着きました。少しでも人のためになればと思い、与えられた環境で自分なりに行動してきた結果、現在に至っておりますが、これまでの経験は職歴としてもバランス感覚を培ううえでも、一つも無駄なことはなかったと思っています。様々な経験の後、最も得意とするところが、大学時代に教えを受けた研究の基礎と論理的思考だったのではないかと感じております。そして現在、日本大学動物病院と共同研究させていただくようになり、20年が経過して母校に戻ってきた事も、何かのご縁のように感じています。引き続き良い形で日本大学に恩返しができ、共に成果を残して発展していけるよう邁進しております。日本大学動物病院で研究に関わっているホームページです。[https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nuanmec/?page\\_id=4035](https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~nuanmec/?page_id=4035)

ご興味のある方はぜひご覧いただければと存じます。



教室前より



がん細胞培養中



研究協力してくださっている  
ビーグル犬。

### 小動物臨床×公衆衛生！

獣医学科  
2017年卒業 伊藤 優真  
帝京大学大学院公衆衛生学研究科  
客員研究員

皆さん、公衆衛生と聞いて何を思い浮かべますか？ 私は公衆衛生って国家試験で勉強した食中毒と感染症の名前くらいしか思い浮かばない何となく地味な印象を持っていた不真面目学生でした。(公衆衛生を教えてください先生方申し訳ありません)

そんな私は今、公衆衛生が大好きです。そう思えるきっかけは、大学院で公衆衛生がカッコいい！という事に気づいたからです。私が進学した大学院は、帝京大学大学院公衆衛生学研究科です。入学する前は、公衆衛生に興味もなくて、自分が研究したいテーマを学ばれている教授がいるから大学院を決めました。入学してみる

とそこには医療に携わる様々な職種の人たち(医師、看護師、薬剤師等の医療従事者に一見全然医療に関係ない職種の人もなんでも)が学んでおり、社会の健康のために何ができるか考えておりました。ちなみに、大学院が出来てからの10年間で獣医師が入学したのは私一人とのことでした。

公衆衛生のきっかけに気付くきっかけになった大学院の授業がありました。まず、公衆衛生を簡潔に説明すると、集団の健康に対する仕組み作りです。

どういうことかと言うと、「川で溺れている人がいます。泳いでその人を川から助け出し、人工呼吸を実施し助けます。助け終わって川を見るとまた溺れている人がいます。また助けに行きます。助け終わって川を見ると、また溺れている人がいます。」

ここで、溺れている人を助けに行くのが救命救急などを含む臨床医学です。

公衆衛生は、川に溺れる人がたくさんいるなら人々(集団)が川に落ちないように上流に柵や橋(仕組み)を作る役割です。ちょっとワクワクしませんか？

臨床医学、公衆衛生どちらが優れているわけではなく、健康を守るためにはどちらも併せていくことが必要です。私の公衆衛生は医療コミュニケーションでした。医療コミュニケーションとは、医療分野に関連した知識や情報のやりとりです。どうすれば飼い主に治療や病気について正しく理解してもらえるか。予防や検診の重要性を伝え、実施してもらうにはどうしたらいいか。これには獣医師と飼い主のコミュニケーションが重要になり、そこでの仕組みや方法を考えることで集団での健康(公衆衛生)に繋げることができます。小動物臨床でも公衆衛生の考え方を広げ、獣医療に貢献できるように頑張っていきます。



大学院の活動で飼い主向けに作成したリーフレットの一部



卒業式にて。



一緒に勉強した仲間から卒業のお祝い、なぜか横断幕が(笑)



## 安心安全な製品を お届けするために

動物資源科学科

2017年卒業 脇本 彩加

(2019年大学院博士課程前期修了)

伊藤ハム米久プラント株式会社

私は現在、伊藤ハム米久プラント株式会社工場の品質管理室に勤務しています。入社当初はウインナーの包装工程に配属され、1年間の製造現場の経験を経て品質管理室に異動しました。私の担当している業務は、製品の衛生状態を管理する細菌検査です。内容は、日々の検査予定の作成や実際の検査業務です。また、速やかかつ少人数で正確な検査結果を得るために、作業の効率化やペーパーレス化など業務の改善活動も行っています。

学生時代は、乳酸菌が生産する抗菌物質の応用にむけた研究に打ち込んでおり、数種類の菌を管理すること

もありました。そのときに研究していた微生物は直接関係がないと思っていた食肉業界でしたが、原料や製造工程、製品など衛生管理をする上で、微生物の知識は大いに活用できています。衛生的に問題を起こした原因となる菌は一種類とは限りません。温度、酸素、栄養、競合する菌などで、優勢的に増殖する菌が変化するという微生物の繊細さが原因特定を困難にする場合もあります。そのため、使用する培地や温度を考慮して培養方法を検討し、原因の特定に取り組んでいます。

私が仕事をする上で心掛けていることは、従業員とのコミュニケーションです。特に実際に作業しているパートさんからの些細な異変の報告や作業がやり辛いなどの意見は、普段からよい関係が築けていないといわゆる報連相が滞ってしまうことがあります。パートさんが見つけた異常も軽く受け止めず上司に報告することで、工

場全体に関わる問題を防ぐことができます。そのため、挨拶はもちろん、普段の作業に問題がないかなど声掛けをし、普段からコミュニケーションをとって信頼関係を築き報連相がしやすい環境作りに努めています。さらに、パートさんが行っている業務を実際に自分が理解していないと、作業のやり辛さなどがわからず業務改善が難しいこともあります。パートさんが行っている業務も一つ一つ理解することでより良い職場環境づくりにも貢献できると考えています。

業界全体でも人手不足が加速する昨今ですが、業務の効率を考えながら必要な仕事を吟味することに葛藤することもあります。しかし、品質管理室の役割は作った製品を安心安全な製品としてお客様のもとに届けるための重要な部署です。今後も、自分にとって求められている役割を考えつつ品質管理の仕事に努めていきます。



弊社工場正面



品質管理室で製品検査中

# 富 嶽 会

生命農学科

連絡先：遺伝育種科学研究室  
0466-84-3515 事務局長 宍戸理恵子  
E-mail: shishido.rieko@nihon-u.ac.jp

## 令和5年度富嶽会総会の開催

例年5月に実施していましたが、新型コロナウイルスによる感染拡大がまだ安心できない状況であることから、令和4年度の事業報告・決算報告・監査報告は、昨年に引き続き6月中旬に開催されたメールおよび資料郵送による第一回理事会内での書類審議をもって、総会決議に代えさせて頂きました。令和5年度の事業計画案・予算案につきましては、交付金の受領方法が決まった時点で理事会で審議を進める予定です。承認された場合、内容を富嶽会HPに掲載いたしますので、ご覧ください。

## 活動経過報告

本年3月25日、130名が生命農学科を卒業して新たに富嶽会正会員の仲間入りをしました。富嶽会からの記念品として、多機能ボールペンが贈られました。令和4年12月17日(土)には3年ぶりに収穫祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点から収穫祭は時間短縮で実施され、午前中に体育館でスポーツ大会が行われました。懇親会は開催されませんでした。長島会長にもお越しいただき富嶽会からの援助により日大農場で収穫した野菜を使ったテイクアウトのカレーが提供されました。令和4年は生命農学科の



収穫祭の様子

1年生から4年生までがそろそろ最後の年であり、この最後のチャンスに収穫祭が実施できたことは非常に嬉しいことです。

## 生命農学科の近況

学部改組により令和5年度の生命農学科の新生はおらず、学生は2年～4年生の3学年となりました。また令和2年春から猛威を振っていた新型コロナウイルス感染症に関連する制限も順次緩和され、就職活動は令和5年度から対面による採用面接・合同セミナーなども復活しつつあります。景気状況も好転してきており内定を数多く獲得する学生も増えてきました。就職活動には4年生もかなりの時間を取られていますが、しっかりと進路先を決定してほしいものです。今年度は原則として新型コロナウイルス発生前とほぼ同様に実験・実習が行われています。講義に関しては令和5年度の前期より原則対面で開講されることになりました。キャンパスにも活気が戻り新型コロナウイルスの影響もなくなりつつあります。また台湾中興大学との交流も5年ぶりにおこなわれ、令和5年7月4日から7月17日には台湾中興大学からは9名の学生が約2週間にわたり生命農学科との交流をおこないました。学内の見学や各教員による講義実習など、これまで実施してきたプログラムに加え、大田市場の視察や日本未来館の見学などもおこないました。また日本曹達小田原研究所や果樹研究所カンキツ研究興津拠点の視察など日本国内の最先端の研究施設の見学なども実施しました。学部校友会からはお茶の提供をいただきました。8月8日(火)から8月20日(日)まで今度は生命農学科から立石亮教授、奈島賢児専任講師、東未来助教の引率で台湾中興

大学へ22名の学生が出向き交流しました。

## 教員の退職・異動

遺伝育種科学研究室の山田昌彦特任教授が定年のため、学科事務室の田村優佳子さん(実習助手)が任期満了に伴い退職されました。長きにわたり学生教育・学科・校友会の発展に尽力いただき、大変有り難うございました。なお生命農学科所属の実習助手は田村さんのご退職で不在となり、現在派遣職員の方お二人が業務を担っております。



左が山田昌彦教授、右が田村優佳子実習助手

## 富嶽会事務局より

大幅な学科再編を受けて富嶽会も他の学科と連携しながら、理事会を中心に会の在り方を検討していくこととなります。

富嶽会のホームページ(<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~fugakukai/>)に、令和5年度 富嶽会 第1回理事会の資料を掲載いたしましたので、どうぞご覧ください。

本年も令和4年度に引き続き事務局長に宍戸理恵子准教授、庶務理事に大澤啓志教授、庶務に奈島賢児専任講師が就任しております。今後ともよろしく願い申し上げます。

(畠山吉則)



台湾中興大学での交流風景



# 紫友会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室

0466-84-3945 事務局長 荻原 淳

E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

## 令和5年度 理事会開催

令和元年度以来の対面開催による理事会が本年7月29日(土)14時より本館33講義室で開催されました。高橋会長の挨拶から始まり、平成4年度事業・決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。次に令和5年度事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。また、理事の皆様同席のもと令和5年度第30回紫友会奨学生の授与式が開催され奨学生の皆様に奨学金が授与されました。

## 活動経過報告

令和4年度の活動は、近年同様、準会員である在学生への後援活動行事が中止となったため、限られたものとなりました。また、生命化学科募集停止にともなって新入生向け行事の開催はありませんでした。通常開催されている行事についてご案内致します。[紫友会奨学生授与]、[紫友会特別賞



紫友会奨学生の皆さん

授与]、[就活支援セミナー共催]、[紫友会杯争奪ソフトボール大会共催]、[研究室配属説明会共催]、その他謝恩会や研究室単位での同窓会開催補助等を実施しております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## [令和5年度 第30回紫友会奨学生決定]

理事会の同日に奨学生選考委員会より厳正に選考された以下9名の奨学生が決定しました。

2年次；畑山 日陽里、小森 亜美、小笠原 宙舞

3年次；遠藤 玉実、紺野 暖菜、上野 妹子

4年次；松本 乃乃花、筑紫 綾、吉添 文乃

## [訃報]

矢崎仁也先生が令和3年10月6日天寿を全うされ穏やかに旅立たれました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。矢崎先生は昭和34年4月から農芸化学科の学生指導に当たり平成13年3月までの42年間、紫友会の発展にも献身的にご尽力頂きました。同先生に対し、深甚なる敬意と謝意を表す次第です。

## 生命化学科の近況

### [在校生]

令和4年11月26日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。熱戦の結果、環境微生物学研究室が優勝しました。表彰式には紫友会役員の皆様にもご同席いただきました。卒業式は令和5年3月25日に日本武道館および学部大講堂にて令和4年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生129名が社会へ羽ばたきました。3密を避けるため指定された講義室に分散しての静かな伝達式となりました。現在、当学科には計398名(男子250名、女子148名)の学生が在籍しております。

### [学科教員動向]

令和5年3月31日付けにて西尾俊幸先生(生物化学研究室)が定年退職、柴木紗織様(実習助手)が退職されま

した。西尾先生の30年間にわたる献身的な学生教育研究指導に対し感謝申し上げます。4月1日から特任教授として学生教育にご助力いただいております。また、柴木様は本学生命化学科卒業後、実習助手として着任し5年間、学科の発展のために献身していただきました。今後のご健康とご多幸をお祈りいたします。これにより、学科全体では教員15名(教授7名、准教授5名、専任講師2名、助教1名)、特任教授1名、合計16名の布陣で教育研究活動にあっております。

## 紫友会事務局より

### [事務局からのお知らせ]

本年度から学部新学科体制に改組されました。このため生命化学科は発展的に募集を停止しました。生命化学科の各研究室は維持され教員は、バイオサイエンス学科(11名)、食品開発学科(2名)、アグリサイエンス学科(1名)、環境学科(1名)の各学科に分かれての所属となりました。今後の紫友会の活動をどのような体制にて実施していくべきか、事務局並びに理事会にて検討しております。引き続き準会員の学生の皆様への支援活動並びに校友の皆様への支援活動など適切に実施していきたいと考えております。今後とも皆様のご支援を御願い申し上げます。

来年度は紫友会創設70周年の記念の年となります。このため本年度は総会を開催せず、来年度70周年記念行事と共催にて総会を開催することを理事会にてご承認いただきました。今後事務局内等にて企画について検討して参ります。

紫友会会員の皆様の近況や同期会等のご様子を事務局までお知らせ下さい。

紫友会のホームページは<http://www.nihon-u-shiyukai.jp>からご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

(荻原 淳)

# 角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医生化学研究室  
0466-84-3634 事務局長 岡林 堅  
E-mail: okabayashi.ken@nihon-u.ac.jp

## 令和5年度 角笛会総会・ 日本大学獣医学会 合同大会の開催

令和5年7月1日(土)、日本大学生物資源科学部1号館123講義室において、令和5年度角笛会総会および第58回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会は渋谷久学会会長のもと、6題の一般公演と獣医学科/獣医保健看護学科の教員2名(小澤真希子先生、堀北哲也先生)による教育講演「再開の一步 ―コロナ禍を乗り越えて―」が行われました。

角笛会総会では鳥海弘会長(昭和50年卒)から挨拶があり、総会は山谷吉樹議長の進行で審議が行われ、令和4年度事業活動および会計収支報告、令和5年度事業計画および予算案等が審議されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、鎌田寛氏(本部)、鈴木功治氏(栃木県)、郷野栄氏(東京角笛会)、井上暉英氏(静岡県)、澤田幹夫氏(岐阜県)、新里康彦氏(沖縄角笛会)の6名、角笛会特別功労者として大久保忠宣氏(東京角笛会)の1名に賞状と記念品が授与されました。

## 令和4年度 角笛会主催 動物病院就職説明会中止

令和5年度角笛会総会および第58回日本大学獣医学会と同日に開催予定であった獣医学科学生(準会員)のための動物病院就職説明会については、中止することといたしました。

## 第19回 日本大学医療系 同窓・校友学術講演会

第19回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部同窓会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会が4年ぶりに開催を予定しています。

松戸歯学部同窓会が担当で、令和5年11月25日(土)13時30分より、日本大学会館(市ヶ谷)大講堂にて、「日大医療人の実力一輝く同窓生」の統一テーマで予定しています。角笛会からは丸山総一先生(昭和57年卒)が「One Healthと人獣共通感染症の制御」の演題(座長:森友忠昭先生(昭和61年卒))で講演する予定です。

## 獣医学科の近況

### 【獣医師国家試験】

第73回獣医師国家試験が令和5年2月14日、2月15日にTOC有明にて行われました。日本大学獣医学科から132名が受験し、115名が合格しました。合格率は87.1%(全国平均81.1%)でした。

### 【卒業生および新入生】

本年3月25日に137名(男子53名、女子84名)が本学科を卒業しました。また、本年4月には134名(男子49名、女子85名)の新入生を迎え、

鶴沼海岸にて新入生歓迎研修会が行われました。

### 【学科人事】

本年3月をもって高橋直紀教授(獣医解剖研究室)、森田真衣さん(獣医学科事務室)、6月をもって佐藤雪太教授(実験動物学研究室)が退職されました。本年4月に中山駿矢助教(獣医生理学研究室)、栗林真珠美さん(獣医/保健看護学科事務室)、川口真理さん(獣医/保健看護学科事務室)が採用されました。また、越後谷裕介先生(実験動物学研究室)、片倉文彦先生(魚病/比較免疫学研究室)が准教授に、木庭猿達先生(獣医微生物学研究室)、増田絢先生(医動物学研究室)が専任講師に昇格されました。



中山駿矢助教

(大野真美子)



角笛会総会(集合写真)



新入生歓迎研修会の様子



# 満喜葉会

動物資源科学科

連絡先：ミルク科学研究室

0466-84-3658 事務局長 川井 泰

E-mail: kawai.yasushi@nihon-u.ac.jp

## 令和5年度満喜葉会総会の開催

3年に1回開催となっている満喜葉会総会は、コロナ禍の影響で中止となっていました。令和5年5月20日に藤沢キャンパスにて開催されました。小杉会長を議長に令和4年度事業報告、決算報告、監査報告並びに令和5年度の事業計画及び予算案が承認されました。また小杉会長、山本副会長から、学部改組により現在の動物資源科学科が廃止となるため、今年度の新入生は居らず、準会員（在校生）は2年生、3年生、4年生となることが報告されました。このため現在の2年生が卒業し準会員がいなくなる4年後には、満喜葉会は学部校友会で、現在の「分会」から「準分会」になることとなっています。この報告を受けて「満喜葉会のこれから」について様々な意見が述べられました。当然まだ結論は出ていません。今後、役員会を中心にたくさんの会員から意見をいただいて議論していくことになります。

また新会長、新役員への交代が承認されました。会長は小杉幸彦氏から植村光一郎氏へ、副会長は松葉普美子氏と新たに田中秀典氏、西野松之氏、佐藤太加志氏、松本純氏、松添佳代氏が、相談役は山本捷氏が就任しました。事務局長は川井泰先生、

事務局会計係は浅野先生が担当することになりました。

## 活動報告

令和4年度卒業生全員に満喜葉会から卒業記念品（オリジナル印鑑付ボールペン）を贈りました。卒業する成績優秀者2名には満喜葉会会長賞を授与、賞金を贈呈しました。また卒業アルバムの制作にあたってはその費用の一部を補助しました。令和5年度4月の新学期ガイダンス時には新3年生と新4年生の成績優秀者4名に満喜葉会賞を授与しました。そしてコロナ禍で中止されていたオセアニア研修（8月）が再開されたことに伴い、訪問先へ満喜葉会のオリジナル印鑑付ボールペンをお土産として利用していただきました。

## 学科の状況

本年度から改組による新学科体制がスタートし、動物資源科学科教員は新しい4学科に配属となりました。また、科内会議は新学科での開催となり、学科事務室は本学科と新学科（動物学科）の業務を担当しています。

### 【卒業生】

令和5年3月25日に140名が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員（令和4年度卒76期）の仲間入りをしました。令和4年度卒業生の進路状況は、就職83.6%、進学3.6%、その他12.8%でした。

### 【在校生】

新学科のスタートに伴い、本学科に新入生は居らず、在籍者数は1年

次8名、2年次142名、3年次134名、4年次121名の合計405名（4月1日現在）となっています。なお、今年度より復活したスポーツフェスタは新学科で開催されています。またオセアニア研修（第14回）が再開し、本年8月に10日間の日程でシドニー、ブリスベン、メルボルンの大学や研究機関を訪問し研修を行いました。

### 【学科人事】

訃報：令和5年1月に満喜葉会の会計担当として長年ご尽力いただきました増田哲也先生（特任教授）がお亡くなりになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

退職：令和5年3月に学科の発展にご尽力いただきました村田浩一先生（特任教授）が定年のため、深谷有紀さん（実習助手）が任期満了に伴いご退職されました。

令和5年度の動物資源科学科は、以下の17名体制で教育研究活動を行っております。

#### 動物生殖学

大西 彰 教授、三角浩司 准教授

#### 飼養学

梶川 博 教授、浅野早苗 専任講師

#### 草地学

佐伯真魚 教授

#### 動物組織機能学

山室 裕 教授、園田 豊 専任講師、相澤 修 専任講師

#### ミルク科学

川井 泰 教授

#### 野生動物学

岩佐真宏 教授、明主 光 助教

#### 伴侶動物学

福澤めぐみ 准教授

#### 学科教授室

細谷忠嗣 教授

#### 動物育種学

長嶺慶隆 特任教授

#### 畜産マーケティング

小泉聖一 特任教授

#### 学科事務室

小宮優子 実習助手、岡田しおり 実習助手

（西野 松之）



第14回オセアニア研修：オーストラリア、クイーンズランド州ブリスベンの農業祭り（8月）

# いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務局

0466-84-3420 事務局長 高橋 巖

E-mail: imozurukai@gmail.com

## 学科80周年・学科校友会75周年

新型コロナが収束しつつある中で、2023年度は記念すべき学科80周年、学科校友会75周年を迎えました。学科卒業生は1万人を超え、食品ビジネス業界を中心に国内外で活躍しています。キャンパスには賑わいが戻り、充実した学生生活を送れるようになってきました。授業は平常どおり開講され、フィールドリサーチ(旧経済調査実習)も全国各地で実施できるようになりました。



多くの学科教員が参加した幹事会

## 幹事会の開催と新会長・新役員選出

6/3(土)に開催された幹事会では、卒業生や役員だけではなく、学科から全教員が参加しました。学生の研究・教育・就職活動に対する支援を行ってきた本会の目的と役割が、学科の先生方に理解されてきています。本会では5年前から特別奨学事業として、実習サポートチューデントや資格取得・留学支援を行っており、昨年度の学生への還元率は、全分会中、本会がトップとなりました。今後も、学科の強みをさらに磨いていけるよう、産官学連携の強化に関与していく予定です。本年度、学科主任に就任した小野洋先生からは、食品ビジネス学科の目指すポイント等についてお話いただきました。学科の新・中長期計画で示された「幅広く深く学ぶ」が発展的に実践されていきます。

幹事会では、2022年度の活動・会計報告、2023年度の活動計画案・予算案等が審議されました。また、このたびの幹事会で、横川屹前会長(21期/元湘南青果(株))は顧問に、藤井正気副会長(28期/TREE'S Co,Ltd)は相談役に就任され、青木泰祐副会長(34期/横浜丸中ホールディングス(株))が新会長に、

中原博司(38期/㈱縁屋)常任幹事が副会長に選出されました。さらに食品ビジネス学科卒業生では初めての常任幹事に鈴木千裕氏(72



青木泰祐 新会長

期/フリーランス)が選出されました。副会長である飯嶋雄次氏(37期/㈱紀文西日本)・三鶯治彦氏(42期/日本精工(株))、常任幹事長(産学ネットワーク担当)である木島実氏(32期/元日本大学)、常任幹事である菊池宏之氏(36期/静岡県立農林環境専門職大学)・持丸祐氏(39期/東亜商事(株))・松原晋氏(42期/㈱ニッスイ)・鈴木盛人氏(43期/荒井商事(株))・米澤哲氏(43期/キッコーマン食品(株))・勝島愛子氏(59期/㈱中村屋)・宇野瞳美氏(66期/㈱久世)・小川明日美氏(66期/全労済)、会計監事である金子徳男氏(40期/崎陽軒)・飯塚勝彦氏(60期/群馬県農業共済組合)はそれぞれ留任となりました。高橋巖事務局長(38期/教授)は継続し、佐藤奨平事務局員(61期/専任講師)は事務局次長に昇格しました。新会長・新役員についても、満場一致で承認されました。新会長挨拶、役員一覧、活動計画等については、ホームページ(「いもづる会」で検索)をご覧ください。幸いです。

## 横川屹会長が学部校友会で表彰選出

通算約40年にわたり、幹事・会長等役員を務められた横川屹前会長が、7/8(土)に開催された学部校友会幹事会において表彰されました。横川前会長は、特に学科75周年・学科校友会70周年記念事業や特別奨学事業を企画・推進することで、学生の教育効果向上及び食ビプライドの涵養等に対して大いに貢献されました。また、学部校友会の役員・副会長として長年活躍された功績が認められました。今後は顧問として大所高所から、本会の運営についてアドバイスをいただきます。



表彰される横川屹会長

## 産学ネットワークの連携強化の推進

「食品ビジネス特別講義」(3年次集中)は、学科校友会からの支援を受けつつ、9/13

(水)～16(土)に開講されました。リニューアルした昨年度から、学科卒業生である若き起業家たちの参画・協力を得ながら、学生たちはDtoC(Direct to Consumer)型のビジネスプランの策定にチャレンジしています。これまで身に付けてきた専門的な経営理論を踏まえて、本格的にアウトプットできる機会としています。DtoCを実践する起業家や大手メーカーの責任者から、ビジネスの立ち上げから現在までの戦略実証のプロセスを学びつつ、21のチームで実践的なグループワークを積み重ねました。活発なグループワークやプレゼンテーションが、学生自身の大いなる自主創造発揮の機会となっています。



メンターの4年生がサポート

## 食品ビジネス学科の近況

### 【卒業生・在校生】

2022年度に140名の学生が卒業し(正会員総数10,471名)、新カリキュラムが始動する2023年度は150名の新生を迎えました。学科単位の学位授与式及び新生ガイダンスは大講堂で行われました。当日の様子は、「食ビチャンネル(YouTube)」でご覧いただけます(チャンネル登録で応援の輪がますます広がっています。2023年9月現在登録者数367人)。まずは1,000人を目指しましょう!

### 【教職員の動き】

2023年4月、農研機構から加藤弘祐助教(マーケティング研究室)が、国際地域開発学科から菊地香准教授(食品資源管理論研究室)がそれぞれ着任されました。統計資料室(食の専門図書室)司書職では、吉村真由子さんの退職に伴い、2023年9月に早乙女美樹さんが着任されました。

情報発信は、Eメール・FB等で行っております。登録をお願いいたします。

(1) いもづる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>「いもづる会」で検索

(2) いもづる会Facebook

(いもづる会 校友会)

<https://www.facebook.com/imozurukai/> Facebookで友達申請をしてください。

(佐藤 奨平)





# あすなる会

## 森林資源科学科

連絡先：森林環境保全学研究室  
0466-84-3675 小坂 泉  
E-mail: asunaronichidai@gmail.com

## あすなる会活動報告

### 【役員会】

令和4年度理事会は、令和4年9月17日に対面で開催し、令和4年度事業報告、決算報告、監査報告並びに次年度の事業計画案及び予算案が承認されました。3年に1度開催される総会についてはコロナ禍のため中止となりました。

あすなる会からの学科・学生への支援として、学会発表に挑戦する学生への補助、1年生の必修科目・森林資源科学実習での樹木テスト実施の補助、オープンキャンパス協力学生への補助を頂きました。また、今年2月に全教員と2年生で10号館と森林科学実験センター(8号館)の大掃除を行った際に、参加学生に焼き芋を提供して頂きました。

## 学科の近況

### 【卒業生・新入生】

本年3月25日には、131名(男子105名、女子26名)が本学科を卒業しました。本年度は卒業式と学科別の卒業証書等の授与式が対面形式で開催されました。研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生への「あすなる会会長賞」を例年通り授与し、9名に表彰状と記念品が贈られました。

令和5年4月より、学科再編により新しく「森林学科」がスタートし、新学科第1期生として130名(男子84名、女子46名)を迎えました。新入生には、あすなる会からご支援を頂き、入学記念品を贈りました。本年度は講義や実験実習が通常通り行われ、キャンパスにはコロナ前のような活気が戻ってきました。新学科1年生の前期必修の森林基礎実習では、少人数のグループに分けて、教員

が個別にフィールド実習や実験を行うメニューの他、5月に秦野市の弘法山ハイキングコース(約7.5km)を歩きました。



1年生の森林基礎実習・弘法山での一コマ



森林フィールド実習・八雲での様子

森林資源科学科の学生への就職支援として、林野庁や都道府県を目指す学生向けの学科主催の公務員講座と、3年生向けの就職支援イベント「卒業生による就職情報交換会」を実施しました。久しぶりの対面開催となった就職情報交換会では造園・緑化、建築・住宅、公務員、林業、メーカー等の様々な業種で活躍されている19名の卒業生にご参加頂きました。学生は熱心に話を聞いたり、質問をしていました。最近では毎年15～20名が林野庁や都道府県庁(林業職)等の公務員に合格しております。民間企業への就職を目指す学生も含め、引き続き学科で支援して参ります。

### 【学科の人事】

本年3月、森林動物学研究室の岩田隆太郎先生が退職されました。長きにわたり教育・研究活動を通じて多くの学生や大学院生を指導して頂きました。また、学科事務室の内海裕美さんが他学科へ異動となりました。

本年4月より、森林共生学研究室

に教授として吉村充則先生が着任されました。吉村先生は森林リモートセンシングがご専門で、これまで東南アジアやアフリカ等で熱帯雨林を対象とした研究に取り組まれています。学科事務室には長澤真由美さんをお迎えし、木村至央さんとお二人での新体制となりました。

### 【新学科の体制と教員配置】

新学科は3つの分野と6つのテーマから構成されています。新体制で教育と研究をいっそう充実させていきます。

**森林エコシステム分野** 生態(安部哲人教授・上村真由子准教授)、微生物(太田祐子教授・松倉君予助教)  
**森林サービス分野** 森林環境(瀧澤英紀教授・小坂泉准教授)、共生(吉村充則教授・杉浦克明准教授・園原和夏専任講師)、  
**森林バイオマス分野** バイオマス(木口実教授・毛利嘉一助教)、エコマテリアル(堀江亨教授・倉田洋平専任講師)

現行の森林資源科学科は、上記13名の教員の他、森林動物学研究室の中島啓裕准教授(新学科では動物学科に異動されます)と森林環境保全学研究室の阿部和時特任教授を合わせた15名の教員体制となっています。

## あすなる会ホームページ

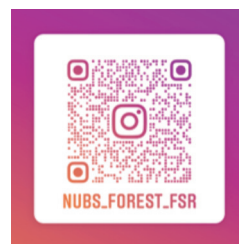
下記アドレス等にて、あすなる会や学科の近況をご覧いただけます。

あすなる会ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

学科ホームページ

<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~forestry/>



InstagramのQRコード

(園原 和夏)

# 桜水会

## 海洋生物資源科学科

連絡先：海洋環境学研究室  
0466-84-3686 事務局長 荒 功一  
E-mail: ara.koichi@nihon-u.ac.jp

### 令和5年度以降の桜水会の運営について

令和5年4月の本学部改組に対応して桜水会は、海洋生物資源科学科および海洋生物学科の在学生(準会員)および卒業生(正会員)を対象とした学部校友会支部として運営することとなりました。ただし、この件については、本年度の桜水会総会での審議事項となっています。

### 令和5年度桜水会総会の開催予定

令和5年10月28日(土)・29日(日)に実施される学部祭(藤桜祭)に合わせ、「令和5年度桜水会総会」が対面(およびオンライン)での開催を予定しています。総会では、令和4年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに令和5年度の事業計画案、予算案、令和5年度以降の桜水会の運営方針などが審議される予定です。開催の詳細が決まりましたら、海洋生物学科HP(<http://www.msr-nihon-university.org/>)で周知しますので、ご確認いただけますようお願い致します。

### 学科・準会員への支援

本年度前期の授業は、4月10日から7月31日までの期間に開講されました。前期開講科目である「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目)の中で、将来就いてみたい職業を見出すという職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生の体験談など講演していただきました。7月7日に館野 泉氏(45期:神奈川県企業庁)と松原 花氏(一般社団法人マリノフォーラム21)、7月21日に杉原 弘介氏(68期:マルハニチロ株式会社)と安田博貴氏(68期:横浜冷凍株式会社)の計4名の卒業生にお願

いしました。また、「特別講義」(3年次選択科目)では、本学科「海洋生物資源応用コース」(JABEE対応コース)の外部評価委員に委嘱されている方々から、長谷川勝治氏(20期:元焼津水産高校校長)、中瀬浩太氏(31期:五洋建設株式会社、技術士)、市橋 理氏(37期:アジア航測株式会社、技術士)、宮下一明氏(38期:株式会社東京久栄、技術士)および田角由香氏(日本ミクニヤ株式会社技術士)の5名に技術者教育の一環として講演していただきました。

上記の他に、1年次の学科オリエンテーションである地引網実習や必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」における熱中症対策などに関わる支援(本年度は下田臨海実験所で乗船実習、磯採集、磯釣り・釣果物の観察などを実施)、1年次用の学科Tシャツの作製・配布をすでに実施しました。今後、在学生の学会参加費等の補助や卒論コンペ(塚本賞)の支援、卒業生への記念品の贈呈等を実施する予定です。

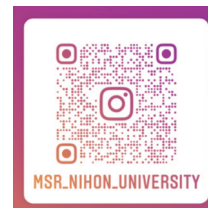
### 学科の近況

#### 【新入生・在学生】

本年4月に海洋生物学科として152名(男子109名、女子43名)の新入生を迎え、新旧学科を合わせて現在582名(男子406名、女子176名)の学部生が在籍しています。また、4専攻に跨る大学院には、博士前期課程28名(男子22名、女子6名)および博士後期課程3名(男子1名、女子2名)が在籍しています。

学科のホームページでは、昨年度より中学生・高校生を対象にSNSを通じた学科の研究活動・学生生活などの情報を発信しております。昨年度は、フォトコンテストを主催して学部生や大学院生の撮った多くの写真をアップしました。また、今年度のオープンキャンパスの際には、より多くの受験生に学科SNSを知ってもらうために、#(ハッシュタグ)を付けた拡散キャンペーンを行いました。インスタグラムとX(旧ツイッター)のQRコードを

載せますので、皆様におかれましてもフォロー等お願い致します。



Instagram  
QRコード



X(旧twitter)の  
QRコード

#### 【学科教職員】

海洋生物科学科では、令和5年度に1名の教職員が新規採用され、4月より藤井琢磨専任講師(水族生態学研究室)が着任されました。学科事務室は、新旧学科共通で濱田奈々実習助手と宮治久美実習助手の2名体制で運営しています。また、4月に中井静子助教と周防玲助教がそれぞれ専任講師に昇格されました。



藤井琢磨 専任講師

### 桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会等の活動のご様子を事務局までお知らせください。桜水会のホームページ(HP)は、リニューアルされた海洋生物学科HP([http://www.msr-nihon-university.org/osui\\_news/](http://www.msr-nihon-university.org/osui_news/))内に併設されております。同HP上で連絡先等の変更手続きができますのでご利用ください。桜水会は、2021年3月に会報の完全オンライン化に移行しました。皆様への連絡方法は、従来のハガキでの送付からメールの送付に移行しています。メールアドレスの登録・変更は、桜水会HPでお願い致します。(福島 英登)



# 工 学 会

生物環境工学科

連絡先：地域環境保全学研究室  
0466-84-3836 笹田 勝寛  
E-mail：sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp

## 会員の動向

工学会は昭和38年の設立以降60年目を迎え、令和4年度卒業生109名を加えて、正会員数は8,169名になりました。

## 令和4年度総会・懇親会の開催

令和2年度以降、コロナ禍の影響を受けて年に一度秋頃に開いてきた総会はもとより、理事会、役員会の開催も困難な時期が続き、在学生への支援活動以外、会員の皆様に対する活動は殆んど出来ない状況が続いてきました。令和4年秋以降になって、コロナ禍の影響が弱まって来た状況を踏まえ令和4年度の総会を年が明けて4月8日(土)ようやく開催することが出来ました。本来ならば会員相互の親睦を図る絶好の機会となる懇親会も学内施設の利用が諸事情により叶わなかったため、学内での総会の後、学外のホテルにおいて会員36名の参加を頂いて開催しました。少人数ではありましたが、来賓も呼ばず身内だけのコンパクトで中味の濃い懇親の場となりました。



総会の様子



懇親会の様子

## 準会員の支援

工学会では、準会員である現役学生の支援として、卒業記念品(ゴム印付きボールペン)の贈呈、卒業記念パーティ(謝恩会)開催に対する補助と、そこでの卒業生表彰(工学会長賞)を行っています。卒業生に対する支援として継続してきました記念品の贈呈と会長賞は、謝恩会の開催が

見送られたため、学位記伝達式の場において事務局長から受賞者(鈴木啓介くん、宮崎直樹くん、北川尚くん)に伝達しました。2年生に対しては必修化された測量学実習Iで着用する実習服代金の一部補助も行っており、3年生には夏期休暇中に農林水産省の出先機関で研修を行う「生物環境工学インターンシップ」に参加する学生への交通費の一部補助を行っています。



卒業記念品

## 就職支援セミナーの開催

コロナ禍で2年間開催を中止していた就職支援セミナーですが、終息が見え始めた令和4年11月26日(土)午後、学部内111講義室～113講義室を使用して、学科学生対象の就職支援セミナーを開催しました。参加の団体・企業の条件としては、1名以上の本学部卒業生が在職して、かつ当日に説明者として参加することにしており、学生が質問しやすい条件を作って行われています。学科主催ではありますが、工学会からは卒業生の団体・企業の紹介、飲料等の提供など後援を行っています。参加の公共団体(公務員)は18団体、民間企業は16社を数えました。就職活動が早期化する中、学生のこの企画への参加がやや低調であったことが反省ではありましたが、生物環境工学科の学生が卒業するまでは、可能な限りの支援を続けていきたいと考えています。



就職支援セミナーの様子

## 学科教員の動向

令和5年度からの学部改組により、これまでの生物環境工学科の専任教員は、環境学科に9名(長坂貞郎教授、串田圭司教授、斉藤丈士教授、笹田勝寛准教授、内ヶ崎万蔵准教授、對馬孝治准教授、藤沢直樹専任講師、山崎高洋専任講師、宮坂香里助教)、動物学科に1名(三谷奈保

准教授)、アグリサイエンス学科に2名(川越義則准教授、梅田大樹准教授)、食品開発学科に1名(都甲洙教授)、国際共生学科に1名(栗原伸治准教授)が異動となりましたが、7号館内の居室などの変更はなく、生物環境工学科の学生が在籍するまでは、その対応もすることになります。

## 今後の工学会の行方

本「会報」において令和5年4月より、学部による「学部改組」がスタートしたことが詳述されていますので、ここでは工学会の今後の行方について説明したいと思います。

外見的には学科名称が「生物環境工学科」から「環境学科」に変更されていますが、カリキュラムも大幅に変わるとともに、6名の教員が異動によって入れ替わるなど、まったく新しい学科が発足した中で新入生が入学してきました。彼らが卒業する3年後の時点で初めて新学科の校友会分会の正会員が誕生することになりますが、この間の在学生への支援については工学会が代行することを受け入れてもらえない状況にあります。

生物環境工学科の在学生が全て卒業するまでの期間、工学会は存続しますが、校友会からの分会交付金は在学生数に応じた仕組みであるため、年々減少していくこととなります。

4年後に工学会は、過去の短大と同様に校友会の既定により分会の資格を失い、現状においては「準分会」となることとなります。

準分会には交付金が入金されない制度となっているため、準分会として存続していくためにはこれまでの様なOB会と同様の親睦活動は行えなくなるとともに学内の事務局のあり方にも波及することになります。この様な状況が発生することを避けるためには、様々な方策について工学会と新学科に設立される新たな分会とが発展的に融合し、分会を継続していくことが同窓会組織として本来あるべき姿であり、望ましい状態ではないかと考えています。今後新学科の理解と協力が得られるよう、継続的に協議を重ねていくことで良い方向に向かって行ければと考えているところです。

(酒川和男・笹田勝寛)

# F T 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室  
0466-84-3980 成澤 直規  
E-mail：narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

## FT会活動報告

### 【FT会理事会および総会の開催】

FT会理事会について、本年度は4月15日(土)に開催されました。これにより令和5年度事業計画案および会計収支予算等に関して承認されました。6月10日(土)に開催された総会において、千野誠氏(10期)がFT会会長に新任されました。関村具由氏(1期)はこれまで長きにわたりFT会会長として本会の発展にご尽力を頂きました。ここに、衷心より感謝の意を表します。また本総会において、学部改組に伴い新設された食品開発学科の入学者をFT会準会員とすることに決定いたしました。

### 【準会員(在學生)への活動】

FT会では準会員の活動援助として、4年生へ卒業記念品の贈呈を行いました。4年生の学業優秀者に贈られるFT会長賞には安田多伊智さん(食品資源利用学研究室)が選出されました。全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。1年生の学部スポーツフェスタに対して、Tシャツ作製の補助を行いました(5月13日雨天により中止)。



安田多伊智さん FT会長賞受賞の様子(令和5年3月25日 卒業式)

## 学科の近況

### 【食品開発学科について】

食品開発学科は、食品開発の基盤となる基礎理論、食品の機能や栄養に基づく人の健康、および衛生・分析技術に基づく安全管理といった食品創りに関わる科学的知識と技術を

修得し、安全かつ健康に役立つ食品の創造開発を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

### 【在學生と卒業生】

令和4年度はFT会58期生140名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和5年度食品開発学科新入生150名を迎え、食品生命学科1年生3名、2年生151名、3年生147名、4年生144名と合わせて595名が在籍しております。

令和5年8月5日・6日に開催されたオープンキャンパスにおいて、卒業生の高橋夏乃さん(厚生労働省食品衛生監視員、食品微生物学研究室)と城内健太さん(キリンホールディングス株式会社、食品生命機能学研究室)にご講演をいただきました。



オープンキャンパス体験実験の様子1(令和5年8月5日、6日)



オープンキャンパス体験実験の様子2(令和5年8月5日、6日)

### 【学科人事】

令和5年度より津田真人先生(食品生命機能学研究室)が本年4月より准教授に昇格されました。

令和5年度食品開発学科は以下の構成となっております。

- 12号館5階  
食品微生物学研究室  
(鈴木ちせ教授、河原井武人専任講師、京井大補助教)  
(旧食品生命学科)

食品加工学研究室  
(阿部申准教授)(旧食品生命学科)

食品素材科学研究室  
(鳥居恭好准教授)(旧食品生命学科)

食品化学工学研究室  
(陶慧准教授)(旧食品生命学科)

食品生命学科特任教授室  
(山形一雄特任教授、荻原博和特任教授)

- 12号館6階  
食品資源利用学研究室  
(竹永章生教授、成澤直規准教授)  
(旧食品生命学科)

食品生命機能学研究室  
(細野朗教授、津田真人准教授)  
(旧食品生命学科)

食品栄養学研究室  
(長田和実教授、大畑素子准教授)  
(旧食品生命学科)

食品分析学研究室  
(松藤寛教授、大槻崇准教授)  
(旧食品生命学科)

- 12号館3階  
食品化学研究室  
(熊谷日登美教授、山口勇将専任講師)  
(旧生命化学科)

- 5号館2階  
食と健康研究室  
(山下正道准教授)(旧くらしの生物学科)

- 6号館4階  
ミルク科学研究室  
(川井泰教授)(旧動物資源科学科)

- 7号館3階  
生物生産流通施設学研究室  
(都甲洙教授)(旧生物環境工学科)

## 事務局より

FT会のホームページ(<http://ftkai.net/>)では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、FT会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っています。ホームページからお問い合わせください。  
(成澤 直規)



# 拓友会

国際地域開発学科

連絡先：熱帯資源作物研究室  
0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸  
E-mail: kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

## 活躍する卒業生

JICA 稲作上級技術アドバイザー

坪井 達史さん (1974年度卒)

坪井達史さんが、2022年に隠遁生活の中ウガンダ政府からの勲章ゴールデン・ジュベリー賞、秋光章、杵築市市民栄誉賞を受賞しました。



杵築市市民栄誉賞の受賞の様子  
坪井達史さん (前中央右)

「改めてネリカの偉大さを実感しました。フリーランスの稲作専門家がこのような栄誉に浴することができたのはネリカそしてJICAの皆様、一緒に汗を流したC/P、専門家、コメ隊員のおかげと感謝しています。」

## 活躍する卒業生

JICA 海外協力隊 (食用作物稲作栽培)

辻愛 友さん (2020年度卒)

ウガンダ(マユゲ県)で、農業分野の研究・技術開発を行う国家農業研究機構の傘下にある地域農業研究所に所属し、稲作に関する活動を行っています。私の主な活動は種子増産と実験の実施です。優良品種普及のため種子の増産が求められており、安定した栽培・供給を目標に、配属先内での栽培管理改善や作業の効率化を図っています。実験では、同僚とともにウガンダ東部地域でよくみられるウイルス病への抵抗性を持つ品種の最適栽植密度検討や倒伏抵抗性を調査しています。想定外のことが頻繁に起こるこの環境で、悩むことも多々ありますが、ウガンダJICA技術協力プロジェクトで専門家として活躍される学科の先輩方にアドバイやご協力をいただき、日々課題に向き合っています。あっという間に2年目を迎え、早くも任期



ウガンダ地域農業研究所にて、辻愛友さん(右端)

は残り数か月となりました。昨年7月にお会いた、ウガンダで長年に渡り陸稲の普及、稲作振興に尽力された坪井元専門家の言葉が

心に残っています。「活動は自身やJICAのためではなく、農家のためにやっている。」この言葉を忘れず、農家と一緒に活動する同僚のために残りの期間に全力を尽くし、向き合っていきたいと思います。

## 雑穀研究会記念シンポジウム

国連農業機関 (FAO) が2023年を「国際雑穀年」と定めたことを受け、雑穀の生産者や研究者による「雑穀研究会」は令和5年1月7日、日本大学生物資源科学部キャンパス(亀井野)で、「雑穀の新たな潮流」と題し、記念シンポジウムを開きました。日本雑穀協会と雑穀研究会の会長を務める倉内伸幸先生が開会あいさつし、「雑穀新時代の幕開け」をテーマに記念公演を行い、協会の意義やロシア、ウクライナなどの世界情勢の変化によって世界各地で物流や物価高騰などの問題が噴出したことに触れ、「栄養価が高く、恵まれていない栽培環境でも生産可能な雑穀が解決できるはず」と力強くお話になりました。倉内会長によると、藤沢市内では、有志や同学部学生が携わる「長後塾」が古代米の1つである黒米を小学校給食に提供するなどし、雑穀の普及に取り組んでいるとのことでした。



登壇する倉内会長

## 学科教員のウガンダ訪問

令和4年9月2日から9月14日まで、山下とその院生2名(新井佐和さん、中村凜さん)がウガンダを訪問しました。ウガンダ東部において、卒業生の藤大輝さん(2015年度卒)が、国際協力機構技術協力プロジェクトアタリ流域地域灌漑施設維持管理プロジェクト専門家として活躍しており、そのプロジェクトに係る諸課題(流通やコミュニティ開発)を調査しました。

## 卒業生によるキャリア研究(講義)と名刺交換会

令和4年10月21日に宇野努さん(1986年度卒)によるキャリア研究が行われました。学生参加型の授業で、積極的な質問等のやり取りが行われました。また、11月26日13:00~16:10には名刺交換会が行われ、総勢23名のOB/OGを招いてこれから就職活動に取り組む学生(3年生)と名刺や情報交換を行いました。



キャリア研究にて、学生らと宇野努さん(右端)



名刺交換会にて、村井宏之さん(1986年度卒)(中央)

## 令和4年度拓友賞授与

令和4年度の拓友賞は、金井美紀さんが国際地域開発学科より推薦され、令和5年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



金井美紀さん(左)、北原会長(右)

## 卒業生の進路状況について

令和4年度卒業生の進路状況は、就職116名、進学3名、その他6名(起業予定3、進学準備1、アルバイト1、その他1)となり、就職希望者に対する就職率は99.14%となりました。

## 青年海外協力隊派遣状況

山崎るうな(食用作物・稲作栽培): 令和5年4月より2年間(派遣中)、ウガンダ  
新井佐和(コミュニティ開発): 令和6年4月より2年間(派遣予定)、ウガンダ  
金井美紀(食用作物・稲作栽培): 令和6年4月より2年間(派遣予定)、ウガンダ

## 令和4年度TOEIC受検

拓友会では520点以上のスコア保有学生を対象に、TOEICの受検補助を行なっております。受検者数8名、受検回数14回、うち最高得点740点(渡邊麻友さん・R4年度4年)となっております。※R5より、520点から500点に引き下げ

## 在学生の近況

令和5年7月現在、1年生\*13名(男子11名・女子2名)、2年生122名(男子85名・女子37名)、3年生141名(男子100名・女子41名)、4年生134名(男子88名・女子46名)の合計410名(男子284名・女子126名)が在籍しています。  
\*令和4年度からの新学科の開設に対応して、IDSの1年生は留年した学生数となっております。ちなみに国際共生学科の新入生は150名(男子102名・女子48名)となっております。

## 退職

麻生久美子先生が退職されました。長年に亘る学科へのご尽力、本当にありがとうございました。(山下 哲平)



## 応用生物科学科校友会

### 応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室  
0466-84-3353 事務局長 明石 智義  
E-mail：akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

### 学科の近況

応用生物科学科の在籍学生数は392名、学年別では1年生5名、2年生138名、3年生133名、4年生116名となっています。昨年度は125名の学生が卒業しました。卒業生の就職率は昨年より上昇し94.3%で、83名の学生が民間企業・公務員等に就職しました。また大学院への進学者は28名でした。卒業生のこれからのご活躍を期待します。

生物資源科学部の学科体制の再編のため、応用生物科学科には入学生がいませんでした。現在の2年生が応用生物科学科の最後の入学生となります。ただし応用生物科学科は、在学生在がすべて卒業するまで存続します。また研究室の名前や場所の変更はない予定で、これまでどおり4号館の2階と3階、生命科学研究所で研究活動を行っています。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置付けられたのに伴い、本年度は対面による授業や学生実験が基本となっています。2年次、3年次に開講される「特別講義I、II」では、学生の将来と就職についての意識を高めてもらう為、各分野で活躍されている学科の卒業生（民間企業4名、

公務員1名）に来て頂き、業界の現状と将来についてオムニバス形式で講義をして頂きました。学生実験はコロナ前まではグループで行うことが多かったのですが、現在は1人ずつ実験を行う形式が定着してきました。卒業研究においては、各研究室でコロナウイルスの感染予防対策を実施した上で、研究活動を行っています。



学生実験の様子

### 学科への支援事業

これまで学科校友会では、準会員へ向けてさまざまな支援を行ってきました。しかし新入生がいなくなり、例年行ってきた新入生歓迎会、スポーツフェスタ、オープンキャンパスなどのイベントへの支援はできませんでした。卒業生はコロナ禍に入学し、いろいろなイベントが中止となりこれまで支援できなかったため、卒業記念品として全員にQUOカード（5,000円）を贈呈しました。なお学位伝達式では、佐々木雄治さん、烏野素生さん、菊池麻衣子さんの3名が、優等賞お

よび学部長賞を受賞されました。次年度は準会員が3年生以上になるため、学生の皆様へどのような支援ができるのか、なかなか見通すことができません。事務局では今後検討し、適切な支援活動を行いたいと考えています。



学位授与・伝達式での賞の授与

### 学科教職員の動き

実習助手として2年半にわたり学科事務、学生実習にご尽力いただいた都地さんが退職されました。研究室体制や各教員の紹介等はホームページをご覧ください。

### 事務局より

事務局では会員の皆様からのご意見、ご要望、ご提案をお待ち致しています。また住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。

(明石 智義)



特別講義の授業風景1



特別講義の授業風景2



## くらしの生物学科校友会

### くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室  
0466-84-3743 事務局長 新町 文絵  
E-mail : brs.kurashi.ko-u@nihon-u.ac.jp

### くらしの生物学科の近況

くらしの生物学科 (BDL: Department of Bioscience in Daily Life) では、3月で特任教授の渡邊慶一先生が御定年になり、1月に研究室主催の最終講義が対面およびオンラインで行われ、多数の卒業生が参加いたしました。渡邊先生のこれまでの教育・研究へのご尽力に感謝を申し上げますとともに、今後の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたします。また高橋 唯実習助手も3月で退職されました。これまで5年間の功労に感謝するとともに、今後のご活躍を祈念いたします。ささやかですが学科教員で渡邊先生と高橋さんの送別会を行いました(写真1)。高橋さんの後任として、4月から巢籠和菜 実習助手が着任されました。また水野先生が准教授に昇格されました。



渡邊先生、高橋さんの送別会にて(写真1)

生物資源科学部は4月に改組となり、獣医学科と食品ビジネス学科以外の10学科から新しく9学科が設置され、教員は新学科に配属されました(氏名の後のカッコ内が新所属)が、くらしの生物学科の学生が在籍している間は、変わらずに学科運営をいたします。本年度は、

#### 動物のいるくらし

恒川直樹 教授 [学科責任者]  
(獣医保健看護)

金澤朋子 助教 (動物)

#### くらしの微生物

光澤 浩 教授 (バイオサイエンス)

相澤朋子 専任講師 (バイオサイエンス)

#### くらしのバイオ

炭山大輔 専任講師 (環境)

安齋 寛 特任教授

#### 食と健康

山下正道 准教授 (食品開発)

近藤春美 准教授 (バイオサイエンス)

#### 住まいと環境

小谷幸司 教授 (国際共生)

小島仁志 助教 (環境)

#### くらしの園芸

新町文絵 教授 (バイオサイエンス)

水野真二 准教授 (アグリサイエンス)

#### 学科事務局

巢籠和菜 実習助手

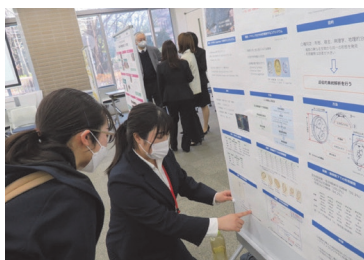
の13名で運営しています。

なお本年7月1日現在で4年生79名、3年生78名、2年生82名、1年生2名の計241名の準会員が在籍しています。

授業は原則として対面で実施となり、教卓に設置されていたアクリル板も5月から撤去されました。

学科の活動として、3年次の必修科目「ボランティア活動」は無事に実地活動を終了し、1月下旬に対面形式で発表会を実施しました。

また2月末には第5回の学科卒業研究発表会を対面形式で開催し、76件の研究発表がありました。研究室に所属している4年生と3年生だけでなく、希望する1,2年生も参加し、活発な質疑応答が行われました(写真2)。



学科卒業研究発表会の様子(写真2)

3月25日の卒業式はコロナ禍以前の形式に戻り、学科の学位記授与式は、体育館での学部全体での卒業式後に開催されました。学科主任の光澤先生から一人一人に学位記が渡され(写真3)、4期生75名が卒業し、新たに校友となりました。学位授与の後には満開の桜のもと記念撮影をする姿があちこちにみられ、また5号館で

各研究室を巡っての記念撮影など、こちらもコロナ禍以前の様子に戻ったように思います。

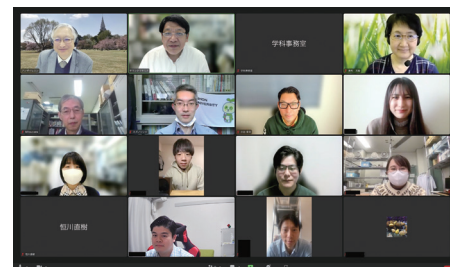


学位記授与の様子(写真3)

3月末時点の卒業後の進路決定状況は63名が就職、このうち2名が公務員となりました。また4名が本学の大学院へ進学しました。

### くらしの生物学科 校友会の活動報告

令和4年度の校友会総会は2月下旬の土曜日に1~4期生9名の参加の下、オンラインで開催いたしました。久しぶりに見る面々が懐かしく、総会後に開催した懇談会は8名が残ったの懇談が1時間ほど続き、全員で記念のスクリーンショットを撮りました(写真4)。



オンライン開催した校友会総会後の懇談会の様子(写真4)

令和5年度の総会は、遠方からの参加のしやすさもあることから、オンライン開催も含めて開催方法を検討中です。

校友会からの卒業記念品として、令和4年度も卒業アルバムを作成し、卒業生全員に贈呈、学科に1冊を寄贈しました。

### くらしの生物学科校友会事務局より

くらしの生物学科は、現在ホームページ(<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/index.html>)およびFacebookやInstagramなどで情報を発信しています。御連絡、および卒業時に届け出たメールアドレスや連絡先住所、勤務先、氏名などの変更がありましたら、事務局長までお願いいたします。

(山下 正道)

# 支部だより

## 宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14  
 支部長：鎌田 雅敬 事務局長：早坂 睦雄  
 TEL.022-378-6592 FAX.022-378-6592  
 携帯電話：080-5579-5456  
 E-mail：mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はR5年度で20周年を迎えました。

■6.23.コロナ感染症で中止していた第17回総会・懇親会を4年振りに市内「エスカイヤクラブ仙台店」で開催しました。会員9名の出席、日本大学校友会宮城県支部より小野隆支部長をはじめ来賓者3名のご臨席をいただき審議され、R元年度～R4年度決算・R5年度計画予算について了承されました。懇親会では各人3分間スピーチを行い次回の再会を楽しみにお開きとなりました。



総会集合



総会

■NU校友会宮城県支部新春名刺交換会  
 R5.4.5.「ホテル仙台ガーデンパレス」で開催、鎌田支部長の他、2名が出席。

■NU学部校友会宮城県支部役員会  
 R5.4.28.「うまい鮎勘一番町店」で開催、役員5名が出席し総会資料について意見交換。

■NU校友会宮城県支部総会・懇親会  
 R5.7.24.「ホテル仙台ガーデンパレス」で開催、鎌田支部長が出席。

■学部校友会通常総会・記念講演  
 R5.7.8.生物資源科学部本館NUホールAで開催、鎌田支部長は欠席。

■宮城県支部開催「第7回仙山交流会」  
 R5.11.開催予定。

■役員会・新年会  
 R6.1.下旬.仙台駅周辺で開催予定。

■NU校友会宮城県支部R6年新年名刺交換会  
 R6.1or2.「H仙台ガーデンパレス」で開催予定。

■ローカルトピックス  
 杜の都の初夏を彩る「仙台・青葉祭り」が4年ぶりに通常開催され、勇壮な武者行列や山鉦が連なる「時代絵巻巡行」や、お囃子に合わせて扇子を大きく振り、飛び跳ねながら踊る「すずめ踊り」の約4千人が中心部を練り歩きました。



すずめ踊り

■会員の状況（R5年現在33名）  
 ※卒業生・富嶽会1名・紫友会1名・角笛会1名・満喜葉会5名・いもづる会5名・あすなろ会4名・桜水会2名・工学会6名・FT会4名・拓友会3名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校東北高等学校（文責者 早坂 睦雄）

## 山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘 4-55  
 日本大学山形高等学校 小嶋 佑治  
 TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634  
 E-mail：kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

■山形県支部総会開催  
 新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し各学部支部校友会の活動も動き出してきました。山形県支部も第30回の記念総会を3年ぶりに開催すべく準備を進めており、多くの会員が集まることを願っています。

■会員紹介  
 獣医学科 平成元年卒 名和宏治  
 本県の方言で「むんつん」という言葉があります。共通語で言えば「へそまがり」とか「頑固者」、「非主流派」「変わり者」のようなニュアンスです。私は自他共に認める「むんつんたけ（～の輩）」です。当初、地方公務員として働くが、元来の悪い虫が疼き、大学の同期の妻と市内に動物病院を開業。以来犬猫、小動物の診療で約30年仕事して来ました。当時からあまり主流ではない（今も決して主流ではありませんが）鍼灸、漢方薬等の中獣医学、花療法、オゾン療法、テートリーオイルなどの代替療法、統合医療に取り組ん

で来ました。終末期に、現代医療から見放されたペットの最後の駆け込み寺として、ターミナルケアを強みとして診療しております。



駐車場の雪かき

ペット医療は、地方の場合昔から、人医の様に大学を頂点に、総合病院、個人開業医と三角形の医療体制から漏れ、一動物病院がある程度まで診断治療までをこなす、自己完結型の仕事で求められてきました。何でも屋です。飼い主（クライアント）は様々、意識も所得も都市部と違い階層化が進んでいません。高度医療には当然、高額な医療費が生じます。万人が高度医療を望まない場合も高額な医療費を負担できない場合も。しかし、病気や疾病で苦しんでいるペット、思い煩うクライアントがそこに存在する訳です。そこに登場するのが代替療法です。低コストで効果の可能性を秘めていると私は閃きました。実際、ミニチュアダックフントに好発する後躯麻痺、椎間板ヘルニアの深刻な症例も鍼灸治療で改善したり、漢方薬で老化やガンの進行を遅らせたりは当院ではしばしば散見されています。

現在の動物病院事情は真に変遷期で、内在し彷彿する問題は多く、解決は容易ではありません。病院の大規模化、企業や外国資本の進出、獣医療の高度化、飼育動物の変遷（小型犬の主流。犬の飼育頭数の停滞から減少傾向。猫の飼育頭数の増加等）。都市部と地方の獣医療格差、人材格差、薬事、訴訟問題、獣医師に求められる資質、教育、スキルの高度化。これから臨床を希望し、独立開業を志す後輩獣医師達はとても大変だと思います。今思えば昭和に学び、平成、令和の変化する社会の中で、浮きも沈みもなく旧中産階級としてなんとか地域に獣医療で貢献してきた事に喜びと満足を感じております。還暦を越え、残る臨床家生活で後、何が出来るか現在、思慮中であります。



犬の治療



病院の看板



### 神奈川県支部の近況

連絡先  
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866  
日本大学生物資源科学部 食品生命学科  
食品資源利用学研究室 鳥居恭好(事務局長)  
E-mail: torii.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

新型コロナウイルスの感染拡大のため、様々な活動が制限されていた。今年5月8日に「5類感染症」に引き下げられ、制限が一気に緩和された。しかし、そのコロナ禍の余波がある。食堂棟の老朽化が進み全面修理を余儀なくされたために懇親会等での利用ができなくなった。



津曲茂久会員(写真左)

令和5年7月8日(土)、4年ぶりに学部校友会総会が学部本館で開催された。その際、当支部・津曲茂久会員(農産物企

画担当)が、長年の功績により、「学部校友会会長賞」を受賞した。大変めでたいことである。

畑作業においては、段取りが大切である。除草、耕耘、石灰窒素、堆肥、化学肥料、耕耘、種まき、マルチかけ、水やり等々、どこかの部分が上手くいかないと思うような収穫は見込めない。一つ、一つの作業が大切である。

支部が使用する畑の周辺の状況も変化してきている。高齢のため畑作業をやめる人が増えてきている。土地を借りて作業をしている人が土地を返却することが増えている。また土地を持っている人は、畑の周りの宅地化が進み農業をやめる例が増えている。

今年8月19日(土)に約100坪に蕎麦の種蒔きをした。信濃1号を約1.5kg蒔いた。11月下旬の収穫までは台風がこないことと、水分調整が上手くいくことを祈るばかりである。



スナップエンドウの植付け



電動石臼機

そば粉作りでは新たに電動石臼機が導入された。今まで利用していた海老名市の製粉所が昨年末で廃業になり困っていると、本学部のアグリサイエンス学科の熱帯有用作物研究室(倉内伸幸教授)が所有している電動石臼機が利用できることがわかった。また前第75号会報で紹介したが会員の知人から新しい石臼を寄贈され、よりきめの細かい粉を調整することが可能になった。そして、何よりも会員達の楽しみは農耕技術担当の会員が製粉された粉を打って生蕎麦を提供してくれることである。自分達の作ったそば粉がある限り最高の味を賞味できる。

何よりも朗報として、支部の総会・懇親会を9月23日(土)秋分の日に横浜で開催できることをご紹介します。

(支部長 稗貫 峻)

### 高知県支部だより

連絡先  
〒785-0610 高知県高岡郡梶原町梶原 1173-2  
高知県支部事務局 來米豊史  
Tel: 090-3187-4207

政策禍とも言えるようなコロナ騒ぎも大分収まり、4年ぶりに第32回高知県支部総会及び懇親会を、高知市料亭得月楼にて、宮島吉夫学部校友会副会長をご来賓として、校友会10名の参加を頂き開催致しました。

久しぶりの事でもあり参加人数は少なかったものの、新しい校友会メンバーもご参加頂き少し若返りが出来た総会でもありました。

今後も若い会員の参加を増やしていく事と、この会を利用したネットワークで進学や就職、ビジネス等に役立てていけるようにしていきたいと考えています。



宮尾登美子原作陽暉楼の舞台



土佐の皿鉢料理



懇親会

宮島吉夫様からは現学部校友会の現状についてのお話等を頂きました。

質問ではやはりアメフト部の薬物問題についての話題が出ました。新入生の減少や在学中の学生の就職等への影響が心配で、どうにも残念な事であります。

5年前会報71号でも書かせて頂きましたが、坂本龍馬が「日本を今一度洗濯致し申し候」と言ったように、「日大を今一度洗濯致し申し候」と言う志を持った理事、教職員、OB、その他関係者の方々、日大維新を成し遂げて頂いて、新しい日大の夜明けが来ることを再び切望しております。



集合写真

## 学部校友会からのお知らせ

### 1 卒業生の動向について

平成25年度から10ヶ年の卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

(単位：人)

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
卒業生数	1,984	1,824	1,848	1,675	1,704	1,799	1,670	1,566	1,557	1,589
内 訳	学部生	1,699	1,600	1,601	1,603	1,614	1,715	1,581	1,480	1,482
	短大生	153	144	149	—	—	—	—	—	—
	大学院生	132	80	98	72	90	84	89	86	75
延べ卒業生数	93,274	95,098	96,946	98,621	100,325	102,124	103,794	105,360	106,917	108,506

(説明) 短期大学部は平成27年度をもって廃止されました。

### 2 会長及び副会長選挙の実施について

会長の選出は、平成23年2月に制定しました「会長選出規程」に基づき、12名の学科校友会会長の合議により行ってきましたが、10年以上経過し制度疲労が顕著となったことから、令和4年10月に「会長及び副会長選任規程」を新たに制定し合議制から立候補制へ変更しました。この選任規程の下で令和5年2月に会長及び副会長(2名)を36名の幹事による投票で選任しました。

### 3 学部校友会の役員改選について

令和5年度は、学部校友会役員(幹事、会長、副会長、幹事長、監査役)の任期満了に伴う改選の年に当たり、幹事36名は、6月24日に開催しました令和5年度第1回幹事会で全員承認(新任6名、再任30名)されました。会長以下執行役員は、7月8日に開催しました令和5年度通常総会に報告し、下表のとおり承認されました。任期は令和5年4月1日から令和8年3月31日までの3年です。

(執行役員)

役 職 名	氏 名	所 属 分 会	卒業年次・学科
会 長	鳥海 弘	角 笛 会	S 50年獣医学科卒業
副 会 長	長島 武志	富 嶽 会	S 50年農学科卒業
〃	高橋 善人	紫 友 会	S 55年農芸化学科卒業
〃	酒川 和男	工 学 会	S 47年農業工学科卒業
〃	北原 幸典	拓 友 会	S 62年拓植学科卒業
幹 事 長	阿部 和時	あすなろ会	S 51年林学科卒業

### 4 令和5年度の藤桜祭の開催について

令和5年度の藤桜祭は、10月28日(土)及び29日(日)の両日学内で開催されます。学部校友会では、事務局会議室(2号館2階)を休憩場所として開放しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

### 5 令和6年度の通常総会及び懇親会の開催について

#### (1) 通常総会

- ア 日 時：令和6年7月13日(土) 午後2時から  
イ 場 所：日本大学生物資源科学部 本館 NU ホールA

#### (2) 懇親会

- ア 日 時：同日 午後4時から  
イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟3階

#### ◎ お 願 い

生物資源科学部には会員各位が卒業されました各学科毎に校友会が組織されております。

本会報は、各学科校友会の会報編集委員の先生及び都道府県支部の会報執筆担当者の方々のご協力を得て学部校友会が作成しております。

したがいまして、掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、あるいは今後の会報発送不要等のご連絡は、各学科校友会及び都道府県支部の記事掲載ページに記載してあります連絡先までお願いします。

学部校友会事務局にご連絡いただきましても対応が出来ませんので、よろしく申し上げます。



発行所

日本大学生物資源科学部 校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866  
印刷所：(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町561